

Ⅱ 新たな挑戦

1 「総合リハビリテーションセンター」において、リハビリテーションの県域拠点としての役割を充実・強化します

(1) 障害者スポーツ拠点の充実

2022年からの全面展開を見据えて「県立ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）」において、先行的なソフト事業を実施します。

ア パラアスリート総合サポートプロジェクトの推進

総合リハ内の各施設と連携し、医学的・科学的な観点からのトレーニングやスポーツ補助具のアドバイスなど、パラアスリートを総合的にサポートする。

○強化指定選手への更なる支援

【内容】卓球（月2回）、パワーリフティング（週1回）

○障害者アスリートマルチサポート事業の実施（週1回）

【内容】卓球、水泳、陸上、アーチェリー、ボッチャ

イ 障害児スポーツ活動拠点づくりの推進

障害児誰もが気軽に参加できるスポーツ教室の開催やパラアスリートをめざす子どもたちへの専門的な運動指導の実施など、多彩なプログラムを提供する「障害児スポーツクラブひょうご」の創設に向け、種目別・レベル別の教室等を開講する。

○初心者を対象としたスポーツ教室（卓球・陸上等）の開催（年4回程度）

○中上級者向けのトレーニング教室や記録会の開催（年4回程度）

ウ ワールドマスターズゲーム（WMG）2021 の開催記念スポーツ競技大会の実施

ワールドマスターズゲーム 2021 へ障害者の参加機運を醸成していくため、障害者を対象とする水泳競技大会・卓球競技大会・陸上競技大会を開催

エ 障害者施設等へのスポーツ支援プログラムの実施

○事業団の障害者5施設をはじめ、地域の事業所などへ訪問指導の実施

【内容】フライングディスク、ボッチャなど 【回数】年間20回程度

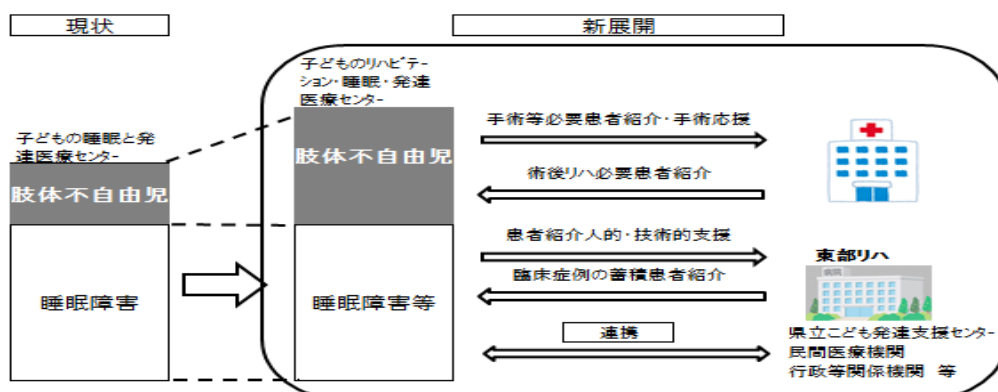


(2) 中央病院の新展開

ア 小児リハ部門の充実

「子どもの睡眠と発達医療センター」を「子どものリハビリテーション・睡眠・発達医療センター」に改組。脳性麻痺等肢体不自由児、睡眠障害等に対して包括的に対応します。

<子どものリハビリテーション・睡眠・発達医療センターの運営（イメージ）>



イ スポーツ障害に対する医療的サポートの体制整備

外傷を負ったアスリートの外科的治療及びリハビリ等を行う「スポーツ医学診療センター（2021年度開設予定）」の設置に向け、開設準備委員会を立ち上げ、院内体制の具体的検討を進めます。

ウ 4階西病棟の変更（一般病棟50床⇒障害者病棟50床）

増加傾向にある神経難病患者に対して、より質の高い看護・リハビリを提供するため、4階西病棟を一般病棟から障害者病棟へ変更します

<病棟変更>

現在				変更後		
	東病棟	西病棟			東病棟	西病棟
5階	回復期	回復期	→	5階	回復期	回復期
4階	障害者	一般		4階	障害者	障害者
3階	一般	一般		3階	一般	一般

○ 看護師配置 15対1⇒10対1

(3) 新「福祉のまちづくり研究所」の構築に向けた取組

少子・高齢社会などの新たな課題を見据えた「本当に役立つもの」の研究開発を進めるとともに、グローバルな視点を加えた教育・研修機能の充実にも取り組みます。

【新たに展開するもの】

- 「介護ロボット開発支援・普及推進センター」の設置（平成31年4月）
- 「ロボットスーツ HAL 西日本教育センター」の設置
- 企業によるヨーロッパ医療機器認証（CEマーク）取得を支援するためのJQA（日本品質保証機構）と連携した臨床評価の検討調査



ロボットスーツ HAL による訓練

【充実強化するもの】

- ロボットテクノロジーミッションの強化
高齢者の立ち上がり動作や歩行速度のデータを集積し、今後の介護予防に活用できる「モーションパラメーター臨床技術」の開発を進めます。
- 居住支援ミッションの推進
暮らしの中での物忘れに対し適切な行動を知らせる「促しシステム」など、IoTを活用した高齢者の自立支援システムの開発を行う。
- 移動支援ミッションの推進
下り坂で速度が出すぎない介助用車椅子の製品化を進める。
- 教育・研修部門の充実
強度行動障害支援者養成研修・サービス管理責任者研修を拡大する。

※IoT:Internet of Things の略。あらゆる物がインターネットを通じてつながることによって実現する新たなサービス、ビジネスモデル、またはそれを可能とする要素技術の総称。

(4) 国際義肢装具協会世界大会（ISPO）2019の開催支援

2019年10月に神戸で開催される「国際義肢装具協会（ISPO）世界大会2019」に積極的に参画し、兵庫県・神戸市の地元自治体と共に成功に向けた取組を推進します。また、世界約70カ国5,000人が参加する機会を活かし、義肢装具や福祉用具・介護ロボット、障害者スポーツへの取組を国内外に発信し、県民福祉の向上をめざします。

ア ISPO2019

〔日時〕2019年10月5日（土）～8日（火）

〔場所〕神戸コンベンションセンター（神戸国際会議場、神戸国際展示場）
神戸ワールド記念ホール

〔主催〕国際義肢装具協会

〔参加者数〕5,000人（70か国）

イ ISPO2019「支援イベント」の開催

○介護・医療ロボット見本市

会期：2019年10月5日（土）～8日（火）

場所：神戸国際展示場

内容：日本企業の先進的な介護ロボットや
高機能福祉機器の展示等

○障害者スポーツイベント

会期：2019年10月5日（土）～6日（日）

場所：ワールド記念ホール

内容：現役パラリンピアンによる講演、障害者スポーツ体験等

○WHOシンポジウム

会期：大会期間中に開催

場所：神戸国際会議場

テーマ：「アシスティブテクノロジーで高齢化に立ち向かう」



(5) 健康長寿・自立支援等への取組強化

ア 健康寿命延伸プログラムの展開

2020年完成予定の新「万寿の家」における本格実施に先駆け、企業等との連携のもと、データ収集・分析やフレイル予防プログラムの開発を行う。

イ 高次脳機能障害への対策強化

○高次脳機能障害者へのコーディネート機能の充実

【相談窓口等の機能内容】

- ・受入福祉施設等への派遣支援、連絡会議
- ・地域連絡会議の開始 ・研修会の開催
- ・高次脳機能障害の受入実態及び課題調査

○4つの高次脳機能障害に対応したグループ訓練による改善、代償手段の獲得

代償手段	遂行機能障害	行動リストをつくり、順番を決めておく等
	注意障害	興味のある作業から始める、集中できる時間を増やす等
	失語症	発語、発話の機会を増やす、書字・コミュニケーション能力の向上
	記憶障害	メモをとる、スケジュール帳に予定を書き込む等

○利用者の障害特性等に応じた個別訓練の実施

- ・職業能力開発施設の評価・訓練を活用した就労支援
- ・発動性の低下した方を対象としたレクリエーション支援

2 西播磨リハの機能を強化します

(1) 神経難病リハビリテーションセンターの充実

- パーキンソン病患者の重症度や併発する症状等に即した診療プログラムを提供
 - ・「目的別の入院コース」の設置に向け LSVT (Lee Silverman Voice Treatment) (パーキンソン病患者への発音・発声のリハビリ) コースの認定資格者を養成
- 「神経難病関連の機器・用具」の展示を充実 (研修交流センター)



「視線検出式入力装置」(miyasuku)

(2) 地域の介護職員の育成のため、喀痰吸引研修を実施

- 介護職員等による喀痰吸引等の制度化に伴い、当センターが有する専門職や機能を活用して実施
- 法人内の人材育成及び地域の専門人材の育成にも寄与

3 子どもから高齢者・障害者、地域住民との交流を実現する「くにうみヴィレッジ」を開設し、地域の安全・安心拠点をめざします

(1) 障害者多機能型事業所及び障害者グループホームの整備

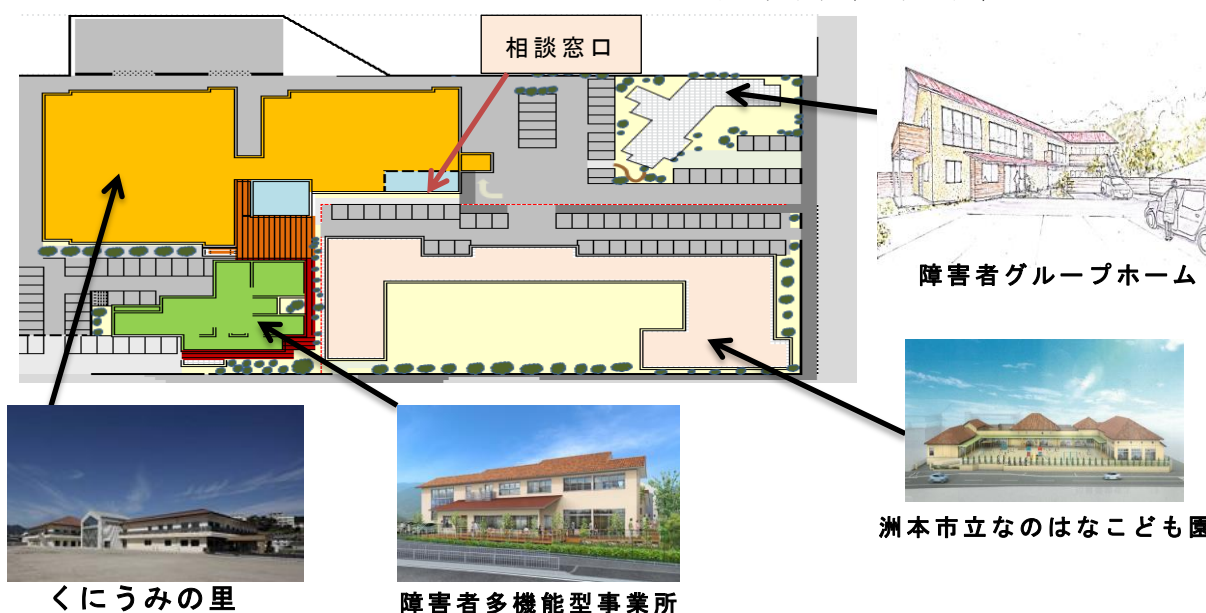
(くにうみヴィレッジの完成目途)

2019年度：建築工事、2020年度：供用開始

(2) 事業団の持つ専門人材を活用し、子育てから介護、生活・しごとに関する相談支援の展開

- 一体的な高齢者・障害者の総合相談窓口の設置 (入居相談、在宅支援相談、就労等相談)
 - ※障害者多機能型事業所及び障害者グループホームの2020年度供用開始に先行し2019年度設置
- 事業団の専門人材 (こども発達支援センター) を「洲本市立なのはなこども園」の子育て支援室へ派遣

<くにうみヴィレッジ配置イメージ>



**4 新「万寿の家」は、県下特養のトップランナーとしてロボット機器の導入及びこれに伴う介護技術を先導・発信するとともに、地域の安心拠点としてユニバーサルな施設づくりをコンセプトに移転準備を進めます
(2020年度移転開設)**

(1) 移転整備の推進

ア 2020年の供用開始をめざした整備事業（建築、備品購入）の推進

イ 多様な機能の付加

- ・地域交流スペースの設置と隣接したカフェ、トレーニングルーム、ギャラリー、研修機能を有したスペースの設置
- ・ニュークックチル方式を中心とした食事提供体制の構築

ウ 利用者の安全・安心と職員の介護負担軽減の両立

- ・介護ロボットの積極的な導入
- ・介護支援ソフトを核とした各種ソフトの連携

エ 主な事業

○特別養護老人ホーム（100床）

- ・ノーリフティングケア、ロボット介護等にかかる介護技術の提供
- ・高齢障害者の積極的な受入

○短期入所（空床）

○地域支援事業（保険外サービス事業）

- ・在宅虚弱高齢者（フレイル）等を対象にした健康プログラムの提供
- ・介護技術にかかる外部研修の開設
- ・地域住民の集いの場としてカフェ、ギャラリー設置ほか

(2) 人材育成

○ノーリフティングケア研修の推進

- ・外部研修の参加、OJTの充実

○介護ロボット、介護支援システム（ソフト等）の活用方法の習得、定着

○外国人技能実習生の受入、育成体制の構築

- ・技能実習責任者、実習指導員、生活指導員の育成と実習計画策定
- ・監理団体である兵庫県社会福祉協議会との有機的な連携



新「万寿の家」イメージ図